

町立津南病院経営強化プラン
点検及び評価報告書（令和6年度）



令和7年9月
新潟県津南町

目次

第1章 総括	1
第2章 数値目標の実績と評価	
1 役割・機能の最適化と連携の強化.....	2
2 経営の効率化等.....	3
第3章 取組状況	
1 役割・機能の最適化と連携の強化.....	4
2 医師・看護師等の確保と働き方改革.....	5
3 経営形態の見直し.....	6
4 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組.....	6
5 施設・設備の最適化.....	7
6 経営の効率化等.....	7
第4章 収支状況	
1 経営の効率化等.....	9

令和6年3月に策定した「町立津南病院経営強化プラン」（以下「経営強化プラン」という。）における令和6年度の数値目標の実績や取組状況等について報告する。

第1章 総括

津南病院は「身近なかかりつけ医療機関として、地域と共に生き、信頼される医療を提供します。」という経営理念のもと、外来・入院・在宅・予防医療を4本柱とし、保健・福祉と連携しながら地域包括ケアの中心的存在として役割を担っている。高齢化や人口減少、医師不足と病院を取り巻く環境は変化していくが、津南病院が魅力あるかかりつけ病院として継続していくため、そして持続可能な地域医療提供体制を確保するための取組みを進めた。

入院では急性期を経過した患者に対し、在宅復帰に向けた医療を提供する機能強化・医療の質と経営向上を目的に、一般病床と包括ケア病床の役割を明確にしてベットコントロールが円滑に進む体制づくりを行った。

外来では住民ニーズに応えるため、院内連携を強化し再入院・長期入院を減らす取組みを進めたほか、地域包括支援センターや他施設との連携を強化し通所リハビリテーション利用者数の増加を図った。

施設や設備に関しては、県の助成を受け通所リハビリテーション送迎車を購入し、利用者の利便性向上に努めたほか、臨床検査システムや検診台など老朽化した医療機器を更新し、安心して受診できる体制づくりを進めた。

医師、看護師確保においては課題が多く、経営改善とともに力を注いできた。若手医師や医学生、看護学生に研修・実習の場を広げ、総合診療医育成を目指して研修プログラムを設定し、学びやすい基幹施設の認定を受けた。

収益においては、患者数の減少により入院、外来とも収益が減少した。費用においてはベースアップに伴う給与費の増や近年の物価高に伴う光熱水費や燃料費の増により、全体として増加となった。町一般会計からの繰り入れは前年比1,789万8千円減の3億6,403万3千円となり一般会計補助金を除く病院単独の収支は△4億8,075万8千円となった。

今後も津南病院が住民の期待に応え存続していけるよう、地域医療介護ニーズを考慮しながら、引き続き持続可能な地域医療提供体制を確保するための取組みを進め、各部署と課題を共有しながら検討、実践していく必要がある。

第2章 数値目標の実績と評価

評価基準

「A」：達成率 100%以上（目標を達成した。）

「B」：達成率 80%以上 100%未満（目標達成に近いが、より一層の取組を要する。）

「C」：達成率 80%未満（目標を達成しておらず、改善を要する。）

1 役割・機能の最適化と連携の強化

(1) 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標

【経営強化プラン第2章1(4)】

①医療機能・医療の質に係るもの

項目	R5年度	R6年度				評価	備考
	実績	プラン	実績	比較	達成率		
救急患者数 (人)	235	300	222	△ 78	74.0%	C	(前年度比)時間内：4人増、時間外：17人減、うち入院：12人増
手術件数(局所麻酔による) (件)	229	210	228	18	108.6%	A	(前年度比)入院手術：11件増、外来手術：12件減
訪問診療件数 (件)	724	750	563	△ 187	75.1%	C	(前年度比)患者：102件減、施設：48件減、往診：11件減
臨床検査件数 (件)	43,289	41,510	41,655	145	100.3%	A	新型コロナウイルス感染症PCR検査数減のため。
リハビリ単位数 (単位)	3,146	3,120	3,219	99	103.2%	A	(前年度比)入院リハ35単位減、外来リハ108単位増
通所リハビリ単位数 (単位)	1,359	1,512	1,453	△ 59	96.1%	B	
訪問看護件数 (件)	574	555	521	△ 34	93.9%	B	(前年度比)新規利用：2件増、終了者：9件減、訪問回数：91回減
薬剤管理指導件数 (件)	995	950	1,013	63	106.6%	A	(前年度比)ハイリスク：23件減、ハイリスク以外：37件増、退院時指導：4件増
栄養指導算定人数 (人)	80	125	228	103	182.4%	A	(前年度比)入院：13人増、外来：135人増
画像診断装置稼働件数 (件)	8,362	8,500	8,617	117	101.4%	A	
在宅復帰率 (%)	92	85	95	10	111.8%	A	(前年度比)自宅(施設除く)退院：19人増、医療系施設に退院：13人減

②連携の強化等に係るもの

項目	R5年度	R6年度				評価	備考
	実績	プラン	実績	比較	達成率		
紹介率 (%)	2	6	3	△ 3	50.0%	C	
逆紹介率 (%)	14	20	16	△ 4	80.0%	B	
逆紹介患者の再受診率 (%)	80	77.5	81	3.5	104.5%	A	
うおぬま・米ねっと登録者数 (人)	2,474	2,400	2,690	290	112.1%	A	

③その他

項目	R5年度	R6年度				評価	備考
	実績	プラン	実績	比較	達成率		
臨床研修医の受入件数 (件)	0	1	0	△ 1	0%	C	希望者がいなかったため。
地域医療研修の受入件数 (件)	5	5	3	△ 2	60.0%	C	希望者数減のため。
医療相談件数 (件)	451	400	475	75	118.8%	A	
人間ドック件数 (件)	449	490	440	△ 50	89.8%	B	
健康診断件数 (件)	609	650	539	△ 111	82.9%	B	

2 経営の効率化等

(1) 経営指標に係る数値目標【経営強化プラン第2章6(1)】

項目	R5年度	R6年度				評価	備考
	実績	プラン	実績	比較	達成率		
1) 収支改善に係るもの							
経常収支比率 (%)	100.5	100.2	92.4	△ 7.8	92.2%	B	
医業収支比率 (%)	72.4	74.3	65.7	△ 8.6	88.4%	B	
累積欠損金比率 (%)	112.0	113.1	132.7	19.6	82.7%	B	※
2) 収入確保に関するもの							
1日当たり入院患者数 (人)	35.5	34.5	33.6	△ 0.9	97.4%	B	
入院患者1人1日当たり診療額 (円)	35,484	35,021	36,435	1,414	104.0%	A	
病床稼働率 (%)	79	80.2	75.0	△ 5.2	93.5%	B	
平均在院日数 (日)	18	18.0	16.0	△ 2.0	88.9%	B	
診療日1日当たり外来患者数 (人)	182.5	184.0	179.7	△ 4.3	97.7%	B	
外来患者1人1日当たり診療額 (円)	7,764	8,359	7,618	△ 741	91.1%	B	
医業未収金の額 (千円)	3,875	3,400	805	△ 2,595	176.3%	A	不能欠損処理を実施したため。 ※
3) 経費削減に係るもの							
給与費対医業収支比率 (%)	91.0	85.0	101.4	16.4	80.8%	B	※
材料費対医業収支比率 (%)	13.1	13.4	14.2	0.8	93.7%	B	※
経費対医業収支比率 (%)	27.5	29.7	29.4	△ 0.3	101.0%	A	※
100床当たり職員数 (人)	121.6	125.7	201.7	76.0	39.5%	C	病床数削減のため。 ※
4) 経営の安定性に係るもの							
医師(常勤)数 (人)	4	5	4	△ 1.0	80.0%	B	
医師(常勤換算)数 (人)	9.2	9	9.9	0.9	109.5%	A	
看護師(常勤)数 (人)	37	41	38	△ 3.0	92.7%	B	
看護師(常勤換算)数 (人)	44.3	48	46.3	△ 1.7	96.5%	B	

(2) 経常収支比率及び修正医業収支比率に係る目標【経営強化プラン第2章6(2)】

項目	R5年度	R6年度				評価	備考
	実績	プラン	実績	比較	達成率		
経常収支比率 (%)	100.5	100.2	92.4	△ 7.8	92.2%	B	
修正医業収支比率 (%)	72.4	74.3	65.7	△ 8.6	88.4%	B	

第3章 取組状況

1 役割・機能の最適化と連携の強化

(1) 地域医療構想等を踏まえた町立津南病院の果たすべき役割・機能

【経営強化プラン第2章1(1)】

外来・入院・在宅・予防医療を4本柱とし、地域のかかりつけ医療機関としての役割を担っている。魚沼圏域で不足する回復期の機能を担い、急性期治療後の後方支援や慢性疾患管理、そして救急告示病院として急患対応を行っている。

また、ワクチン接種や人間ドック・健診事業による予防医療にも取り組んでいる。

入院・外来機能においては、経営状況等を踏まえた検討を行い、外来では診療科の一部縮小、入院では一般病床を5床削減し、40床全てを地域包括ケア病床に変更することを示した。

今後も病院機能の検討を行い、引き続き地域のかかりつけ医療機関として期待される役割を果たしていく。

(2) 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能

【経営強化プラン第2章1(2)】

休日・夜間の救急受入れ、慢性疾患の増悪や合併症併発等による基礎疾患の悪化の受入れ（サブアキュート機能）及び急性期治療が終えた患者の受入れ（ポストアキュート機能）に対応している。

また、訪問診療、往診、訪問看護、通所リハビリテーション等の在宅支援を行い、地域包括ケアシステムの一翼を担っている。

逆紹介率は昨年度比2%増、そして逆紹介した患者の当院への戻り率は81%となっており、必要な専門治療や診断につなげ、かかりつけ医としての役割を担っている。入院の在宅復帰率は95%であり、チーム医療における在宅支援の効果であると考えられる。

休床中の3階の病床については、津南町の介護サービスの選択肢の減少を踏まえ、町民のニーズに応えるため、介護医療院の開設の方向性を示した。

(3) 機能分化・連携強化【経営強化プラン第2章1(3)】

医療計画において、魚沼圏域では地域完結型医療を目指しており、津南病院は急性期病院の後方支援病院としての役割を担っている。

特に重点課題である糖尿病においては、糖尿病教室や糖尿病学習会に近隣の介護施設職員からも参加してもらい、地域で糖尿病患者支援ができるよう働きかけた。津南町の健康フェアにおいても血糖測定や健康相談を行い、町民の健康維持・改善に向けた取組を行った。

また、介護施設の協力医療機関として、地域連携室を中心に毎月のオンラインカンファレンスの実施や医療相談等の支援を行っている。

ACP支援についても力を入れ、地域医療魚沼学校の「うおぬまでACPする」研修会に参加し、その後院内研修も行った。

地域で限られた医療資源を最大限効率的に活用するため、近隣医療機関と役割分担し、引き続きそれぞれに求められる役割を果たしていく。

(4) 町民の理解のための取組【経営強化プラン第2章1(6)】

津南病院ホームページにおける院内活動（研修会、防災訓練、糖尿病教室等）の掲載や町広報紙にて「津南病院いろいろ発見」の連載を行い、津南病院を知ってもらう機会とした。また、県事業の協力を得て3回の医学生等向けイベントを実施し、新聞等の報道により地域医療への関心も高まった。

一方で、患者満足度等の調査の実施には至らなかったため、引き続き町民ニーズの把握に向けた検討を行う。

今後はSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等を活用した病院情報の発信を検討し、より分かりやすい情報提供を目指す。

2 医師・看護師等の確保と働き方改革

(1) 医師・看護師等の確保【経営強化プラン第2章2(1)】

令和6年度は、医師及び訪問看護専任者を含む看護師を募集し、病院看護師1名を採用できたが、依然として充足できなかった。

医師については、常勤ではないものの若手医師2名が週3日間連続勤務をし、入院患者を担当しながら外来診療を行い、併せて病院の課題に取り組んだ。

人材確保の専門部署設置については、人材や財源に限りがあり検討には至っていない。そのため医師確保策の補充として人材サービス事業者に登録し、大手企業1社を新たに加え、合計7団体・事業者から情報提供を受けている。令和7年度はさらに1社増としている。

看護師については、年間を通じて募集してはいるが、予定数の確保はできていない。学生向け人材サービスへの登録を継続し、近隣学校への訪問活動も行っているが更なるアプローチが必要であり、令和7年度に活動・取組の拡充を図る。

(2) 臨床研修医の受入れ等を通じた若手医師の確保【経営強化プラン第2章2(2)】

従前から東京慈恵会医科大学附属病院の初期臨床研修医を受け入れ、令和5年度からは新潟大学医歯学総合病院からも受け入れている。

糖尿病専門医を目指す専攻医には、既に日本糖尿病学会認定教育施設Ⅱの認定を受け、研修施設、指導體制を整えている。総合診療医を目指す専攻医には、総合診療専門研修プログラムを立ち上げ、募集を開始したが、令和6年度採用の応募はかなわなかった。プログラムの連携施設を拡充し、令和7年度採用の応募者1名を採用した。

新潟大学医学生や新潟県地域枠医学生の地域医療実習についても積極的に受け入れたが、当院の認知は十分ではない状況である。県事業の協力を得て3回の医学生等向けイベントを行い、県内外56名が参加。当院の現状や課題、そして魅力を発信し、次年度のアクションに向けさまざまな提言を受けた。

(3) 医師の働き方改革への対応【経営強化プラン第2章2(3)】

ドクターズアシスタント（医師事務作業補助者）を3名採用して医師の事務軽減に対応し、患者と向き合う時間を増やせるように支援した。

また、医師を含めた全職員の勤務実態を明確にするために勤怠管理システム導入の準備を進めている。

医師の業務の効率化を図ることを目的の一つとして電子カルテの導入についても検討し、令和7年度に電子カルテの導入を予定している。

3 経営形態の見直し【経営強化プラン第2章3】

休床中の3階の病床において、津南町の介護サービスの選択肢の減少を踏まえ、町民のニーズに応えるため、介護医療院の開設の方向性を示した。

4 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組【経営強化プラン第2章4】

新潟県と新興感染症の医療措置協定を締結しており、現在も発熱外来を継続し、発熱者や風邪症状のあるかたの診療・検査に対応している。

入院においては、陰圧個室を1室整備し、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の患者の受入れ体制を強化した。加えて個室ゾーニングも行い、感染拡大防止を図っている。

また、感染防止対策向上加算及び連携加算算定による感染対策合同カンファレンスへの参加や感染管理認定看護師による院内巡視・指導を受け、日々院内感染対策の強化を図っている。

今後はオンライン診療の実施についての検討を進め、導入することでより一層の感染拡大の防止を図りたい。

5 施設・設備の最適化

(1) 施設・設備の適正管理と整備費の抑制【経営強化プラン第2章5(1)】

県の助成を受け通所リハビリテーション送迎車を購入し利用者の利便性向上に努めたほか、臨床検査システムや検診台など老朽化した医療機器を更新した。院内 LED 化も進め、費用抑制を図った。

今後は中長期的な視点から病院のあり方等の検討を行い、計画的に取組を進める必要がある。

(2) デジタル化への対応【経営強化プラン第2章5(2)】

電子カルテ及びオンライン診療導入に向けた取組を開始し、令和7年度に電子カルテ及びオンライン診療の導入を予定している。

また、マイナンバーカードの健康保険証利用の適切な対応と利便性向上のため、顔認証付きカードリーダーを1台増設した。

今後は院内体制の整備や院内外への周知等を計画的に進めていくとともに、医療系システムを安定稼働させるため、職員の情報セキュリティ等への意識を高めていく必要がある。

6 経営の効率化等

(1) 目標達成に向けた具体的な取組【経営強化プラン第2章6(3)】

①収入増加・確保対策

収入増加対策の最重要課題である医師確保については、非常勤の若手医師2名を採用し、それぞれ週3日間の連続勤務により、入院患者を担当しながら外来診療を行う体制を確保した。

救急患者の受入れについては、全体の患者数同様に減少傾向にはあるが、引き続き受入れ体制を維持している。

また、紹介率・逆紹介率ともに前年度比では上昇しているものの、他医療機関とのさらなる連携強化が必要である。

令和6年度診療報酬改定においては、新設された「生活習慣病管理料Ⅱ」の算定に取り組むことで減収の抑制を図った。加えて請求漏れや査定減についての検証を毎月行い、防止策を強化している。

通所リハビリテーションにおいては、地域包括支援センターや他施設との連携を強化し利用者数の増加を図った。

未収金対策では、施設入所の死亡者家族や、休日・夜間等で計算できなかった患者への請求書送付や未払いの患者への督促状送付により回収に努めた。また、請求不能となった未払金の洗出しを行い、欠損処理を行った。

今後も収入確保のための取組を継続し、特に地域包括ケア病床への変更に伴う入院単価及び病床稼働率の上昇に向けた取組を進める必要がある。

②経費削減・抑制対策

委託料については、実績を踏まえ契約内容を確認し更新を行っている。特に契約額の大きい契約については業者との打ち合わせを定期的に実施している。

施設関係では、照明を蛍光灯からLED灯に更新し電気料の削減に努めている。

消耗品関係については、新聞等の購入を廃止、会費関係について全額病院で負担していたものを個人と折半することとした。

また、外来診療体制及び医師当直体制についての見直しに向け、派遣病院と院内での調整を図った。

③患者サービス等の推進

患者サービスの観点では、職員それぞれが患者の話に耳を傾け、目を見て話すことで丁寧なコミュニケーションを心がけるとともに、ご意見箱やなんでも便りの意見を真摯に受け止め、職員の接遇向上に努めた。

また、広報活動として津南病院の魅力や情報発信を町広報紙に定期的に掲載し、診療変更等のお知らせについてはホームページ・広報無線や院内掲示を効果的に活用することで町民への周知を実施した。今後はSNSの活用についても検討を進める。

④マネジメント体制の評価

経営戦略の検討、データ収集、院内調整業務等を担う経営推進室に適切な人員配置を行い、併せて若手医師2名が津南病院の経営課題に取り組むことで体制の強化を図った。

人材育成においてはOJT¹を推進するほか、多職種において必要な研修に職員を派遣している。

院内では毎月の会議等で経営状況を共有し、経営目標発表会や病院の体制に係る職員説明会を開催することで、職員の理解及び経営意識の向上に務めた。

¹ OJT：実務を通じて、知識や技術などを身に付ける人材育成の手法

第4章 収支状況

1 経営の効率化等

(1) 経営強化プラン対象期間中の各年度の収支計画等【経営強化プラン第2章6(4)】

①収支計画(収益的収支)

(単位:千円、%)

	R5年度 (実績)	R6年度 (プラン)	R6年度 (実績)	R6年度 (比較)
1. 医業収益 a	977,925	966,831	912,770	△ 54,061
(1) 入院収益	461,716	441,002	445,956	4,954
(2) 外来収益	405,683	419,357	367,618	△ 51,739
(3) その他医業収益	82,508	78,264	71,826	△ 6,438
うち他会計負担金 b	0	0	0	0
(4) 介護保険収益	9,295	7,850	10,046	2,196
(5) 訪問看護収益	18,723	20,358	17,324	△ 3,034
2. 医業外収益	389,224	344,224	371,412	27,188
(1) 一般会計補助金	381,931	339,000	364,033	25,033
(2) 国(県)補助金	612	220	1,484	1,264
(3) 長期前受金戻入	1,934	1,943	2,079	136
(4) その他医業外収益	4,747	3,061	3,816	755
経常収益(A)	1,367,149	1,311,055	1,284,182	△ 26,873
1. 医業費用 c	1,350,609	1,300,765	1,389,317	88,552
(1) 給与費	890,344	822,170	925,167	102,997
(2) 材料費	128,065	129,136	130,030	894
(3) 経費	268,910	287,030	268,143	△ 18,887
(4) 減価償却費	60,617	60,210	62,644	2,434
(5) その他	2,673	2,219	3,333	1,114
2. 医業外費用	9,283	7,679	9,034	1,355
(1) 支払利息	1,885	1,785	1,683	△ 102
(2) その他	7,398	5,894	7,351	1,457
経常費用(B)	1,359,892	1,308,444	1,398,351	89,907
経常損益(A)-(B)(C)	7,257	2,611	△ 114,169	△ 116,780
特別利益(D)	120	0	82	82
特別損失(E)	902	0	2,638	2,638
特別損益(D)-(E)(F)	△ 782	0	△ 2,556	△ 2,556
純損益(C)+(F)	6,475	2,611	△ 116,725	△ 119,336
累積欠損金(G)	1,094,900	1,093,627	1,211,625	117,998
累積欠損金比率(G)/a × 100	112	113	133	20
経常収支比率(A)/(B) × 100	101	100	92	△ 8
医業収支比率 a/c × 100	72	74	66	△ 9
修正医業比率(a-b)/c × 100	72	74	66	△ 9

②収支計画（資本的収支）

（単位：千円）

	R5年度 (実績)	R6年度 (プラン)	R6年度 (実績)	R6年度 (比較)
1. 企業債	0	0	0	0
2. 一般会計出資金	26,455	31,323	27,228	△ 4,095
3. 一般会計負担金	0	0	0	0
4. 一般会計借入金	0	0	0	0
5. 一般会計補助金	0	0	0	0
6. 国（県）補助金	905	0	825	825
7. 寄附金	0	0	0	0
収入計 (a)	27,360	31,323	28,053	△ 3,270
うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額 (b)	0	0	0	0
前年度同意等で当年度借入分 (c)	0	0	0	0
純計 (a)-{(b)+(c)} (A)	27,360	31,323	28,053	△ 3,270
1. 建設改良費	40,859	45,500	38,139	△ 7,361
2. 企業債償還金	9,718	13,812	13,812	0
3. その他	0	0	0	0
支出計 (B)	50,577	59,312	51,951	△ 7,361
差引不足額 (A)-(B) (C)	△ 23,217	△ 27,989	△ 23,898	4,091
企業債残高	58,814	45,002	45,002	0